



# 能登高だより第66号

編集・発行：石川県立能登高等学校総務課

TEL：0768-62-0544 FAX：0768-62-2935



## 学び舎に別れを告げて… 旅立ちの時一。

### 3年生諸君へ！～はなむけの言葉～



校長 大窪直一

能登高校にとって、平成二十八年度は定員減という厳しい現実を突きつけられたスタートでした。しかし、卒業生の弛まぬ努力と能登町をはじめとした地域の方々のご支援によって、国公立大学合格者数や公務員合格者数において過去最高の数字を残すことができました。

今年度の卒業生が残してくれたものは数字だけではなく、学校に新たな校風を残してくれました。それは、現状に満足せず困難に打ち克ち目標に向かって突き進む姿勢です。

大学進学において、何度も不合格通知を受取つて涙した生徒が、最後に歯をくいしばって合格通知を手に入れました。就職においても同様です。周囲が内定をもらっていない中で、自分だけ決まらず不安に押し潰されそうになりながら、踏ん張って内定を取り付けた生徒がいました。全ての卒業生にありがとう。よく頑張った。

#### 31H担任 高橋潤哉

卒業おめでとうございませう。そして、ありがとうございませう。皆さんとは苦楽をともにしながら大変充実した一年を過ごすことができました。進学のため親元を離れたり、社会人として実社会に船出する皆さんに「一期一会」という語を送ります。広辞苑を開くとこう記されています。「生涯にただ一度まみえること。一生に一度限りであること。」世の中には多種多様な価値観を持つ人が溢れています。土地が変われば文化風土が違い、若者と年配者との世代間のギャップや同年代の人との間にも価値観の違いはあります。これから多くの人と出会い、刺激を受け、感化されることもあるでしょう。人との出会いは自分磨きの絶好のチャンスです。自分の哲学を持つと同時に、他人の哲学から何かを学んではどうでしょうか。様々な難問が待ち受けている将来、自分の価値判断だけで済まらずに他者から学ぶ心を持っておこう。人との出会いを大切に。



#### 32H担任 向峠増観

ご卒業おめでとうございませう。皆さんにとって高校三年間はどのようなものでしたか。多くの人は、この学び舎に夢と希望にあふれて入学式を迎えていたと思います。みなさんの夢は達成できていますか。進学を希望している人にとっては、まだまだ途中という人もいると思います。まだ時間があるので、まわりに流されて焦ることなく着実な一歩を踏み出して欲しいと願っています。



私と同じ年のイチロー選手は「夢を掴むことは一気にはできません。小さなことを積み重ねることで、いつの日か信じられないような力を出せるようになっていきます。」と言っています。目標を達成するために、日頃の小さな積み重ねが大切で、目標に向かって諦めず進み続けることで、いつか夢を叶える能力が備わっているということです。

これからの人生には義務教育や高校生活のような決められた時間は無く、勉強をしなくても大丈夫と思ってしまう人もいるかと思えます。でも、夢を叶えるためには小さな努力の積み重ねが大切だということを忘れないで下さい。

#### 33H担任 濱岡駿一

三年生の皆さん、卒業おめでとう。思い返せば皆さんと同じタイミングで能登高校にやってきた私は、いわば、「同級生」のようなものでした。皆さんが緊張していた入学式の日にも私も同じように緊張していました。

月日の流れは速く、初々しかった我々は様々なことを経験し、同じように成長してきました。教員と生徒との違いはあれど、勉強をして、部活動に取り組み、時には怒ったり泣いたりしたことは同じです。私が教員として皆さんに伝えられたことがあるかはわかりませんが、私は皆さんから様々なことを教わりました。

私はこれからも教員として皆さんと共に学んだことを活かしていきます。皆さんもこの能登高校で学んだことを活かし、社会にでも学び続けていってください。学びを続ける限り、お互いの道は明るく開かれていくことでしょう。皆さんの幸多い人生を願っています。



1月31日、課題研究発表会がありました！



**下田 樹 (農業コース)**

私はグリーンアドベンチャーというテーマで課題研究に取り組みました。つるを取り除くために木に登ることが大変でした。自分たちでまとめるのに時間がかかりましたが、発表は始まるよとあつという間に終わってしまいました。

**段 希実康 (福祉コース)**

練習と本番ではステージに立った時の空気が全く違いました。練習では上手くいくか不安になっていた皆も本番では吹っ切れたように練習以上に上手く表現できたと思います。発表を終えて本当によかったです。

**森本 真矢 (商業コース)**

商業からは5つのテーマで研究発表をしました。どの班も研究成果が聴衆の方に伝わるように最後の最後までスライドを修整してきました。私の班は発表練習を繰り返し行いました。その甲斐もあり、私は原稿を見ないで発表することができました。来賓の方から「スクリーンを見て発表しているところが大変素晴らしい」とお褒めの言葉をいただきました。

**坂口 甲斐斗 (水産コース)**

私は課題研究で藻塩を研究して良かったと思っています。ホンダワラでの藻塩づくりは、試行錯誤で大変でしたが、藻塩が完成した時は喜びがあふれました。さらに、藻を使わず直接海水から塩（私たちは白塩と言っています）を作り上げました。自分たちで作った塩を試食した時には、正直、苦みがあり美味しいとは思わなかったのですが、やはり自分たちで作ったということもあって、いやな感じではなく、料理の調味料として使ってみたいと思いました。

次は、研究当初の目標である、藻塩の活用の研究に取り組みました。このことは、新聞でも取り上げられ、記事として掲載されました。私たちは、後には引けないという立場で、研究に取り組みることになりました。

まず、自分たちで作った塩二種類、市販の塩二種類を使って「いかの塩辛」を試作しました。四種類の自作「いかの塩辛」で、塩味、風味、外観、香りなどについて先生方を対象に分析し、藻塩の良い効果を確認できました。

味は、正直、販売用に学校の実習で作った塩辛よりも美味しかったです！この時、私はやっと藻塩づくりの研究成果が出た気がしました。

その後、自作塩で「うどん」をつくりましたが、にがり成分が多い自作塩では、うどんの「腰」が出ないことを発見しました。

次に、藻塩を使って「かぶら寿司」を試作しました。かぶらは、同じ研究に取り組む大平君のおばあちゃんから8kgを分けていただき、間には全国産業教育フェアの三枚おろしの実演で、私と菅野君が捌いて、冷凍しておいたフクラギを使い、結果は、塩味が薄く仕上がりましたが、ほんのり藻の香りもあり、試食された先生方から販売してほしいという声もありました。しかし、市販の塩などとの比較対照が作れなかったため、藻塩の効果を検証できませんでした。

かぶら寿司に取り組む前の一月に、新潟県の新潟県立海洋高校で行われた日本海北部地区水産高校生徒研究発表大会で藻塩づくりまでの研究結果を発表しました。新潟県までの道中、どのような発表になるか楽しみでした。本番、他の水産高校の発表を聞きレベルの差に愕然としました。無事発表は終えたのですが、もっと研究と発表練習を重ねるべきだと実感しました。

再び発表する機会が訪れました。一月三十一日、本校の課題研究発表会です。無難に発表できたと思いますが、来賓の方々に藻塩の試食していただくなど、もっと、視聴者に訴える動きのあるプレゼンができなかったかと、悔いも残りました。

この課題研究を通して、課題はまだありますが、色々な人と関わったり、色々な事を学べたり、この仲間と先生とで一丸となって終えることができ良かったです。

**\* 3月の主な行事予定 \***

- 2日 第6回卒業証書授与式
- 5日 鳳雛塾（公務員講座）
- 10日 学校評議員・関係者評価委員会
- 14日 校内球技大会
- 24日 大掃除・終業式・離任式
- 25日 春季休業（～4月7日）
- 27日 春季補習  
学習合宿（ともに～29日）



編集後記

高校受験を終え、合格発表に緊張した15の春…あれから3年、今、18の春を迎えた3年生の皆さん。どのような想いが胸に去来しているのでしょうか。この能登高校を巣立って、次の新天地へ向かう節目の季節に、校長先生および担任の先生方から、背中を押してくれる素敵なメッセージが届きました。背負っている未来の長さは一人ひとり違いますが、人生は時の積み重ねです。

これからは、人から学ぶ謙虚な姿勢、そして、自分で自分のことを客観視できる心の眼を持つ賢明さが必要だということを、先生方は、メッセージに込められているように思います。何故なら、大人になるにつれて、叱ってくれる人は自分の周囲に少なくなるからです。先々への期待と不安と、先生方がくれた言葉も胸に詰め込んで、どうか皆さん、豊かな人生を送って下さい。卒業おめでとう！

